

日本に一番近い山東省威海市の地元力

科学技術交流会で水の浄化法をプレゼン

コロナ禍の蔓延もあり、最近、飛行機に乗っていない。海外に出かけたのは2年前の12月になる。行先は、中国の山東省。武漢での新型コロナウイルス感染症発覚の少し前で、2週間の拘束なしに出かけられたぎりぎりの時だった。

中国側が負担してくれた。2019年12月25日に出発、3泊4日し、28日には帰国した。

威海市は、山東省の最東端、日本に一番近いところに位置する。しかし成田からの直行便はなく、青島空港の着発で飛んだ。青島空港からは、高速道路で250キロ、地で、水の浄化法についてプレゼンし、結果、今では、疎遠になっ

では、海洋汚染は避けなければならない。化学処理ではなく、微生物の活性化により浄化する方法の紹介で、関心と興味を惹いた。プレゼン後、4組の事業者から連携のオファーがあった。翌春になった。翌春には新型コロナウイルスが拡大し、WeChatでの連絡だけになってしま、結果、今では、疎遠になっ

規模感と躍動感に満ちた未来型都市

規模感と躍動感に満ちた未来型都市。進んでいる。現代的、別の言い方があるが、冬が厳しい。威海キャンパスでは、コンテンツポラリである。パスは温暖であり学生の人気が高

旅行の目的は、「第1回日中科学テクノロジー革新協力大会」に参加するためであった。中国政府のほか主に山東省と威海市が、日本の科学技術を取り入れ、人的交流を行い、威海市を先進的産業による開発都市にしようという背景がある。

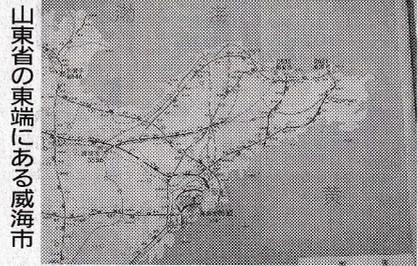
あらためて言うまでもないが、中国は、広い。そして発展している様子がある。このように見ると、この自負と存在感がある。大学は、開発都市、医療健康産業開発都市、そして未来都市。象徴的な産業パークにある3〜4の事業所を見学した。新材料開発、ファッ

日本側の参加者がプレゼンし、現地企業とマッチングを図るといって企画イベントであった。筆者は住所地从成田空港までは自費であったが、それ以降の航空旅費、滞在費、会議加費等はらに近代化が

地元力発見!

佐藤建吉 「洗楓座」代表

総合



大規模な医療機器会社の工場群(模型展示)

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大大学院工学研究科准教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。「全国ぐるさと大使連絡会議」理事

山東省の東端にある威海市

会議会場(威海海悦建国飯店)

大規模な医療機器会社の工場群(模型展示)